



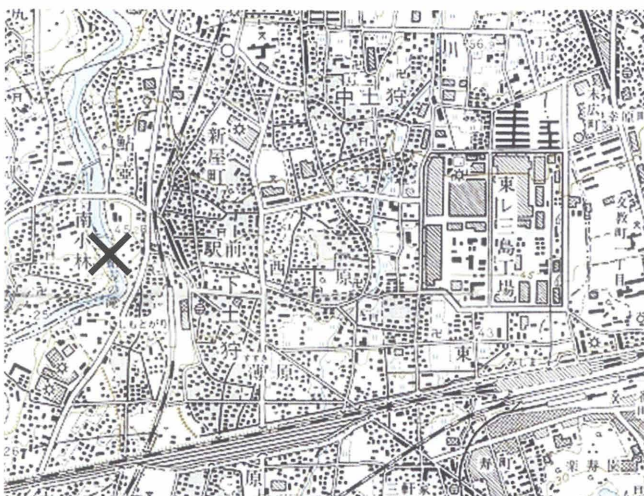
E019 鮎壺の滝(静岡県GEO DATA(12) : 地学散歩(91))

著者	増島 淳
雑誌名	静岡地学
巻	111
ページ	ii-ii
発行年	2015-06-19
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00024572

E019 鮎壺の滝



御殿場線下土狩駅から北西へ約10分歩き、黄瀬川の牧堰橋手前で新たに整備された遊歩道をしばらく下流へ歩くと、三島溶岩に懸かる鮎壺の滝に出る。駐車場はない。約1万年前に流下した三島溶岩上部層は、ここで愛鷹山の尾根にぶつかり止まった。その後の黄瀬川の浸食で硬い溶岩層だけが残



国土地理院 1:25,000 三島

り、落差約8mの滝を形成した。渇水期には1本、増水期には数本の滝となる。滝の下側が抉れているのは、浸食された愛鷹山の尾根の傾斜を示している。河原に降りてゴロタ石の上を歩き、滝壺の右側で溶岩層を見上げると直立した溶岩樹型が観察できる。足元や川底には黄色の愛鷹ローム層中部層が露出している。滝を作る溶岩は斜長石の目立つカンラン石玄武岩で、上下は多孔質、中心は緻密である。滝の上流側の河床ではポットホールや溶岩樋などの地形も観察できる。

(増島 淳)